

北海道

【帯広聾学校】《3 / 1 2》

帯広聾学校は特に大きな被害もなく、少年団の活動を中止して全員帰りました。

【北海道白糠養護学校】《3 / 1 3》 ※どさみちの賛助会員が勤務

地震発生時は、隣の公宅三階に生徒と職員全員で避難しました。
翌日の昼に大津波警報が津波警報に変わり、全員寄宿舍に帰りました。
昨日の朝方まで太平洋沿岸側では避難勧告が出ておりましたが、私の家は内陸の方にあるので自主避難ということになっていました。
ライフラインがあるので生活はどうかできています。

青森県

【青森聾学校】

《3 / 1 2 午前》

青森は停電、電話不通、メール遅滞のため、暖や食事がとれず混乱しています。
昨日は卒業式で、祝う会も終わり下校した直後に地震が起きました。
駅やバス停で足止めをくった生徒を寄宿舍につれもどし、県内各地の市町村から親に迎えに来てもらいました。
最後の迎えが九時半で終わり、私（工藤）も10時すぎに帰宅しました。

《3 / 1 3 夜》

青森は昨夜までに電気が復帰して大部生活が戻りました。
ただ、交通機関は停止したまた、一部バス、あとは車でのみの移動となっています。
聾学校は校舎に異常がないということで、平常通りに今日の午後から開舎になりました。
交通機関の停止、ガソリンの補給が心配で連れて来れない家庭が多いようで、今のところ4人程度の帰舎予定です。
学校も明日から平常通りに始まりますが、交通機関が停止のままだと、登校可能なのは市内の幼児児童生徒中心になると思われます。

【八戸聾学校】《3 / 1 3 夜》

八戸聾学校は地震のため校内は散らかっており、明日は休校となり、職員で片付けるそうです。
また、体育館などは地域の避難所として開放しているそうです。

岩手県

【盛岡聴覚支援学校】

《 3 / 1 1 夜 》

盛岡は全員無事です。

今も停電中で雪が降っており、とても寒いです。

《 3 / 1 2 夜 》

先ほどやっと電気がつき、携帯を充電しながらメールを送ります。

昨日は停電により携帯の電池残量が微妙で詳しいことを報告することができませんでした。

昨日は卒業式で、生徒たちは昼過ぎに下校しましたが、とくに遠距離地の生徒たちは帰省の途中でまだ帰宅していないと思われ、生徒本人や保護者に連絡を試みたが、なかなか繋がらなく心配しましたが、無事に帰宅したようです。

14日月曜日まで生徒は自宅待機にし、職員は出勤です。

うちの学校は内陸部にあり大きな被害はありません。

でもあの揺れは人生最大級で本当に怖かったです。

残念ながら沿岸の方は大津波により壊滅状態です。

また学校の聾の先生の自宅がどうなっているか心配です。

別の聾の先生の実家は無事なのですが、変わり果てた仙台の街並みに落ち込んでいます。

さきほど岩手にまた大きな余震がありました。

今夜もフクロウになりそうです。

《 3 / 1 4 》

①安否状況

生徒も職員も全員生存しております。

②施設状況

一部破壊した箇所がありますが、学校の建物自体は無事です。

ただ、サーバーや携帯電話など電波が機能できず、情報の提供・収集が限られています。

水道においても貯水槽に残っている水を取りあえず使っています。貯水槽に水が送られているか、また、今後どうなるかは不明。

③交通状況

JRもバスも運行があまりなく、交通機関が麻痺している状態。今週は復旧が見込めない。

ガソリンも制限されており、給油が難しい。1回につき5～10リッター。

④本校の今後について

今日は生徒のみ自宅待機。明日も引き続き自宅待機。JRやバスなどの交通機関の復旧のめどがつかないため、今週中に登校することはないだろう、という話でした。来週以降に登校すると思われれます。

秋田県

【秋田聾学校】

《 3 / 1 2 朝 》

秋田は大丈夫です。

生徒は職員の送迎等で家に帰しました。

停電のため連絡がとれず自宅待機中です。

《 3 / 1 4 》

秋田は生徒も職員も校舎も被害はありませんでした。

聴覚障害教員の茂呂邦夫先生、菊地武実先生、賛助会員の佐藤美智子先生もみんな無事です。

ライフラインも13日朝には県内全域でほぼ復旧したようです。

12日中に14日は臨時休校、職員は出勤との連絡網もまわってきました。

15日～17日までは午前授業、給食後の下校となります。

が、ガソリンが1回2000円までしか入れられないなどこのスタンドも給油制限があり、1時間待ちといった状況です。

遠方の児童生徒は通学が厳しいことが予想されます。

山形県

【山形聾学校】

《 3 / 1 3 》

山聾は、明日と明後日は臨時休校、卒業式は延期となりました。（15日卒業式の予定でした）

昨日と今日、連日緊急会議で、可能な職員は出勤しました。

明日と明後日は、職員も預かり年休で休みです。

子供も職員も全員無事、校舎は大きな破損はありません。

《 3 / 1 4 》

①臨時休業は3月16日まで延長する。この日は職員は通常勤務とする。

②3月17日は授業日。在校生はいつも通り登校。卒業生は次の③の通り。午前は授業と修了式。給食ありで、13:15から14:45まで卒業式。下校は15:30。

③3月17日は卒業生は家で昼食をとってから12:00登校。12:00より修了式を行い、13:15から14:45まで卒業式。

例年並みの門出式は無理だろうと思います。厳しい日程になりますが、在校生にとっては今年度最後の日、卒業生にとっても学校ですごく本当に最後の日。思い出に残る日にしたいです。

被災地の方々のことを思うと、何をすべきかとじりじりとします。が、まず自分が今

しなければならないことをしっかりやり、できることをできる限りやりたいと思っています。

山聾の子供の親戚に塩竈や気仙沼の方がいらっしゃるので安否が心配です。震災に遭われた方々のことをいつも想っています。学校の動向を見ながら、募金活動を始めた

【酒田聾学校】 ≪ 3 / 1 3 ≫

酒田聾学校では、子どもたちが下校したかしないかくらいの時に地震が発生しました。まだ学校にいた子は机の下にもぐり、その後、会議室に避難しました。

迎えに来た保護者も一緒に会議室で待機していました。

1時間後、揺れもおさまったので、子ども達を帰しました。

酒田は地震発生5分後にもう停電になったので、保護者も私達も、信号が消えた交差点で注意せよとのことを言われました。

校舎も無事です。

【鶴岡高等養護学校】

≪ 3 / 1 2 朝 ≫

日本海側なので倒壊等の被害はありませんが、震度4～5の地震が断続的に続いています。

昨日は、電車はストップ、加えて大雪のためにバスもマヒ状態、養護学校の生徒たちなので単独下校はさせられず、生徒たちの親に迎えに来てもらうことで対応しました。大雪で気温が0℃なのに暖房もつけられない状況の中、夜9時過ぎにやっと生徒全員の引き渡し完了し、私も夜中に帰ってきました。

私の住んでいる鶴岡市は電気が復旧しましたが、聾学校のある酒田市や山形市はまだ停電が続いているようです。

≪ 3 / 1 2 ≫

山形県は、電気が復旧した所が増えてきていますが、35%の所がまだ停電が続いているようです。

私の所でも、今日になってやっとインターネットが通じ、随時ネットを開いて文字情報でいろいろ把握しているところです。

山形県は、岩手・宮城・福島・新潟のいずれとも隣り合っているため、いずれの震源地の地震も影響が大きく、震度2～4の地震が絶えずに続いています。

≪ 3 / 1 4 ≫

今日から通常通りの授業でしたが、電車はストップしており、遠方の方はガソリン不足のため送迎もできず、欠席した生徒も数人いました。

ボイラーのための重油を入れる予定だったが、重油が届かないため、明日の修了式までは暖房を入れられるが、明後日からは暖房なしにせざるを得ないとのことでした。

北国なので、例年4月中旬も降雪がある程で、寒さに震えながらの入学シーズンとなりそうですが、太平洋側の悲惨な状況を考えると、贅沢は言われていません。

こちらは太平洋側に比べると被害は大きくないので、春休みに宮城の方へHelpに行

きたいくらいなのですが、物流がこちらにも入ってこない状況なので、全国の方の善意を集める方法がないのが悔しいです。

《 3 / 1 6 》

昨日（3/15）昼過ぎ、県教委より緊急連絡があった。

山形大学工学部の教授より「南東からの風に乗り、放射線物質が山形県内に入ってくる恐れあり」と連絡があったとのことで、県教委より県内の学校に対して「午後3時まで生徒を下校させるように」との指示があった。

この日、本校は1，2年生の修了式で、たまたま午後から学年PTA、保護者面談が入っており、ほとんどの保護者が校内にいる状況だった。（本校は高1～3年生のみの学校で、3年生は11日の午前中に卒業式を終えていた。この日の午後到大震災が発生した。）

午後2時頃に緊急職員召集がかけられ、校長より指示があり、学年PTAを途中で打ち切り、2時半までに保護者と生徒を下校させた。

その後、職員も緊急退勤し、午後3時には閉庁となった。

しかし、その夜、県教委による指示情報は誤りであったことが、ニュースに流れた。

3/15 21:43 山形放送ニュース（山形放送HPより）

『児童らの一斉下校は誤り、県が発表』

福島第一原発の爆発を巡り、県教育委員会は、15日午後、山大工学部からの指摘に基づき県内の幼稚園から高校までの全ての施設に対し、子どもたちの一斉帰宅を指示した。しかし、その後、県は誤った対応だったとしてあす以降、通常通りの授業を行うと発表した。県教育委員会によると15日午後1時ごろ、山形大学工学部から

「福島の浜通りの風が北西方向に吹いており山形県にも放射線を含んだ風が流れてくる可能性がある」と県教委に連絡があった。これを受け、県教委は、気象庁などの話を聞いた上で児童、生徒をすぐに下校させる措置を決め、県内全ての保育園と幼稚園、小中学校、高校に対し午後3時までに一斉帰宅させるよう指示した。しかし、県の災害対策本部は午後4時半に会見を行い、県内の放射線量は15日現在、通常のレベルで異常値は観測されておらず、一斉帰宅の指示は県教委の独断による誤った対応だったと発表した。

高橋副知事は「情報が一本化されず混乱させた。今の判断では通常通り教育現場に復帰してもらいたい」と語った。

県には保護者らから放射線の影響を心配する問い合わせが相次いだという。県は、今回の対応について謝罪した上で、適切な情報提供を徹底したいとしている。

宮城県

【宮城県立聴覚支援学校】

《 3 / 1 2 》

震度7と思われる大地震で学校の中はめちゃくちゃです。

職員室も理科室もパソコンやらガラスやらが散乱し、足の踏み場もありません。

耐震補強をした校舎は大丈夫ですが、校舎同士のつなぎ目がぼろぼろです。幸い訓練を重ねてきた生徒、職員は全員無事でしたが、停電で何もできません。交通は完全にストップし、帰れない生徒30人ほどと寄宿舎の一室で管理職含めた職員20名ほどと一夜を過ごしましたが、腹ペコなのに、乾パンしかありません。飲食店もコンビニも完全に営業停止です。今日から電気が来ないとまずいです。ただ待つだけです。

停電でケータイの中継ができないのか、全くつながりませんでした。今朝方に警察の近くに来て、ケータイの電波が届くことにホッとしています。海沿いの学校の方では津波で痛ましい事故が多発したようですが、宮城ろうは何とか持ちこたえています。月曜日は休校。職員は片付けで出勤。

《3/13①》

ご心配をおかけしましたが、今朝がた電気と水道が回復しました。携帯の電源がようやくとれて、メールできています。車のバッテリーから電源を少しとれてはいましたが、停電のためか圏外になってしまい、メールをつなげるためには二隣の岩沼市の警察署付近にまでいかないとつながらないほどの大変さでした。3月11日午後2時46分。はじめにドンとくる感じの初期微動があり、グラグラとゆれ始めました。同時に職員室の職員は訓練してきたので、生徒の確保に走り出すもの、教室に駆け出すものといいましたが、途中であちこちで白煙があがり、廊下の棚や物がたくさん落ちだして、駆け出した職員はみな立てずにその場で動けなくなりました。とにかくものすごい大地震でたちすくむしかありませんでした。かつてない大地震でした。普通の地震とはちがい、主要動が長く激しく、横ゆれだけでなく縦ゆれ(初期微動のこと)もまじったような激しさで、長く恐怖がすさまじいゆれで、「学校は潰れたな」と一瞬感じたほどでした。しかし耐震工事をした校舎は大丈夫でした。ただし、校舎と校舎のつなぎ目に亀裂が入り、通行禁止になっています。私は理科室の薬品が心配で、生徒のことは他の職員にまかせて理科室に一目散にダッシュしましたが、途中で座り込みました。ゆれが少し小さくなった時に理科室を見ると、水槽は落ちて割れ、壁側の実験台は1mも移動していました。標本はたくさん割れ、ガラス器具や実験器具もほとんど散乱し、呆然としましたが、気を取り直して中学部の薬品庫、理科の薬品庫と確認しました。数年前に薬品庫の地震対策を完了していたので、何と全て薬品が無事でした。自作の試薬が少し割れただけで奇跡的に薬品本体の被害は皆無でした。確認が終わり、避難場所に行くと全校生徒と職員が集まっていました。どの顔も呆然自失。職員が走り回り、敷物を準備し、着るものを準備し、毛布を準備し、テントを立てて子どもたちの防寒と安全確保に走り回りました。しかし雪が降りだし、弱り目にたたり目、泣きっ面に蜂というか、悲しいですね。寒さに耐えられずに、寄宿舎の一室に逃げ込みました。

大きな余震が何度も続き、その度毎に外に避難してはの繰り返して心身の疲労も大変でしたが、どの生徒もがんばりました。

保護者が迎えに来られない生徒30人と職員20人ほどが一夜を過ごしましたが、余震に怯える生徒のために一晩車のライトで寄宿舍の一室を照らし出していました。

ところがガソリンスタンドがあかないとは思わなかったので、車のガソリンがすごく減ってしまい、帰ることを心配するほどになりました。

生徒の力になることが今は最優先です。保護者から全く連絡がない生徒が三人も。心の支えが必要です。

心が折れないように親父ギャグで笑わせていますが、さすがに疲れてきました。

が、電気と水道が回復しました。順次保護者からの連絡が来ることを神に祈っています。

《3 / 13②》

12日は前日に続き、電気と水道、ガス、交通機関はすべて止まり、ライフラインは壊滅しました。

さらにガソリンスタンドも閉まったまま。

僅かにローソンで在庫を売っていて長い列ができていました。

ほか弁も自家発電と備蓄物？で弁当を売っていたのですが、地域の人たちにとっては神様のようなありがたさでした。

食べるものがない、飲むものがない、食べるものを作れないのですから、食べ物がないのが一番の悲惨な所でした。

私は長い列のできたコンビニで並んで運よく購入した食べ物飲み物を生徒に差し入れできました。

が、学校に備蓄していた保存食などもあり、生徒の飲食は十分ではありませんでしたが、大丈夫でした。

さて、今朝の状況ですが、生徒6人、職員も同数以上で宿泊しました。

つい先程海沿いの家で所在のわからなかった保護者が一人来て、生徒をつれて帰りました。

ついでに避難所では水がないとのことで水を差し上げました。

あと残り五人です。全員の家庭が無事でありますように(祈)。

私は、昨日夜生徒が寝てから、車で自宅に初めて帰りました。

家ではみんな寝ていました。

ろうそくの生活でした。

が、農家なのでご飯とカップラーメンが食べられたので涙がでました。

瓦がたくさん落ちていて、窓ガラスが落ちて割れていました。

部屋はめちゃくちゃで、仏壇はひっくり返っていました。

神も仏もないとはこのことかと一瞬笑ってしまいましたが、自暴自棄な笑いです。

妻の母はこちらに避難してきていました。

ガラスが散乱していて、一室をかたづけるだけでたいへんな時間がかかったと妻は悲しそうでしたが、二階の私の部屋は棚の物が本やら書種やらパソコンやらプリンターやらテレビやらはすべて落ちてしまい、それがドアを中から押していて、隙間はあってもビクともしないので入れません。

妻からはもし寝ていたら死んでいたねと。

後でもいいから片づけてねの言葉を後ろに、朝六時に家を出ることに。

残っている生徒が心配でたまらないからです。

運よく群馬の義理の弟がガソリンやら灯油やら水やら食料品を車に満載して来てくれたので、感謝感激でした。

私はひとりっこですが、兄弟のありがたさをこんなに感じたのははじめてですね。

宮城県立聴覚支援学校は18日(水)まで休校。職員は片付けのため通常勤務。

12日予定だった高等部合格発表延期、17日予定だった小学部中学部卒業式延期。

明日から通常勤務(泣)ですが、本当に疲れました。

みなさんからのメールには励まされました。

持つべきものは友。本当に感謝感激でありがとうございました。

みなさんもどうかお気をつけくださいね。

《3/16朝》

地震5日目の昨日宮ろうで最後まで行方のわからなかった石巻の生徒の保護者からメールがありました。

電気がつながり、一階まで浸水しているが、二階で家族全員無事に生きているとの連絡をうけ、校長はじめ待機していた職員全員で歓声を上げました。

生徒の安堵の表情はいうまでもありません。

宮ろうの生徒の家族は全員無事の確認が完了しました。

私は、地震の2日後に群馬の義理の弟がガソリンやら灯油やら水やらを車にのせてきてくれたり、四日目に運よく、本当に運よくいつもは劣悪ガソリンスタンドと陰口をきいていたガソリンスタンドに三時間並んだだけで満タンにできたので、昨日の早朝石巻駅前に保護者を探しに行ってきました。

ガソリンがないので、行きたい人もいけないのですが、運よく行けましたが、泥だらけの地獄でしたね。

浸水していたり、家が流されたり、車が流されていたり、泣き崩れている人が多数いました。

私は会えないまでも勤務先の病院で母親の生存を確認し、生徒の無事を伝えてほしいと市役所や病院にも掲示してきましたが、地域は地盤が沈下し、車が入れず、陸の孤島でした。日本地図はこれから変わるなど実感したほどでした。

加藤学先生と太田先生は無事です。

今はガソリンが足りないことと飲食物の枯渇がすごく心配です。

仙台は電気と水が復旧した地域もありますが、今日は真冬の寒さ。

蓄えていた飲食物も少なくなってきました。

石巻地方では10万人がまだ不明だとも聞いています。

大変な中を避難生活している人たちを見てきて、足りないものをすぐにでも持参したいのですが、足となる車のガソリンがまず足りないのです。

白石から石巻まで海沿いのルートは壊滅でしたので、大崎まで行って山沿いに石巻に行くには270kmもかかりましたから。

いくらプリウスでも簡単には何度かは行けないのです。

またガソリン枯渇で、ガソリンスタンドは緊急車輪用でもうほとんど買えません。

山形に行って買おうとしましたが、完売でした。

先ほどは静岡でも大地震があり、これがどのくらい続くのか、全くわからず、とにかく儉約するしかありません。

《 3 / 16 夜 》

私は冷静ではいられないです。

地震発生時、停電で情報が全く入らない状態の時に、威力を発揮したのは実は車のカーナビのテレビでした。

健聴者は乾電池のラジオをきいていましたが、私は生徒が避難した寄宿舎の一室をプリウスで一晩中照らして、不安を解消すると同時に、自身はテレビで情報を得ていました。

だから健聴者の先生方以上に情報は得ていましたが、ケータイは完全につながらなくなりました。

PHSは災害に強いことを信じこんで機種を変えないでいたら、結局一番つながらなかった。

いろいろなアイテムのついたケータイをがまんして備えてきたのに、一番ダメなのはPHSなのには悔しいことこの上なしです。

聴覚障害者は情報障害者です。

車のカーナビで情報をとれることをみなさんに知ってほしい。

ただし、すぐにガソリンがなくなるので、これがネックです。

また車が流されたらもうダメですね。

もう一つは石巻地区ですが、停電と中継タワー？の倒壊でケータイが全くつながらなくなり、復旧に5日もかかりました。

陸の孤島になったところにもっと早く行ってくれてもよいのでは？

仙台でも3日、4日とかかりました。

何をしているんだと怒りばかりでした。

そういう時こそ、電源確保はもちろんのこと、中継車両などの大至急の派遣をお願いしたい。

手ましケータイの電源を入れても、通じないでは意味ないのでは。

物流をはじめとして支援も遅すぎる。

神戸などからの緊急車両が宮城にかけつけるのを見るとありがたいと涙もでましたが、何で発生3日頃にのんびり来るんだ、今頃と腹がたつことばかりでした。

今、宮城では電気は辛うじてつながってきましたが、新たに食料なし、ガソリンなし、ないないの状態です。

緊急車両へのガソリン入れのため、一般車両には全く回ってきません。

仲間を探しに行きたくても、ガソリンがないのでは行けないではありませんか。

緊急車両はガソリン持参で来てほしい、人の応援も地元の食料や宿泊施設をとらないで持参できてほしい。

もうガソリンも食料もどこにも売っていないのですよ。

明日からは耐久生活に入ります。

聴覚障害者とは限らずにみなさん苦しんでいます。

最後に、これまで一番恩恵を受けていた都知事が長年の何とかというバカな発言をしたのを聞いて、開いた口がふさがらない。

都知事が音頭をとって早く何とかしろというのが本音ですね。

悔しいです。

【仙台市立鶴谷特別支援学校】

《 3 / 1 5 》

私が住んでいる仙台市太白区八木山地域は、被害はまだ軽微な方です。

ただ、山に沿って建っている家が多いので、被害が多いです。

崩れたガレキは、今日になって片付けられている箇所もあります。

私の家の中はめちゃめちゃですが、ヒビは角のつなぎ目のあたりですね。土がぱらぱら落ちております。

原発は不安ですが、雨水をためて、トイレで使うことにしました。

被害は少ないものの、近所で水道管が破裂しており、修理するにはかなり時間がかかりそうです。

県内では、ライフラインが確立したところもあるようですが、こちらはまだ電気だけです。

まだ何もきていない避難所も多いです。

津波被害を受けた地域に近い中学校(避難所)に行っている旦那は、昨日の夕方から寝ないで走り回り、先ほどいよいよ具合が悪いとメールが入りました。

市内の学校職員はみんなこのように被災者を支援しております。

私は勤務地が遠いこと、市内全学区の特別支援学校であること、校舎が危険なこと、から、私は出勤していません。

近くのスーパー、コンビニはもう何もありません。

避難所にいれば配給があるようですが、自宅にいる人には何もありません。

家にある米を食べております。

18日からは私も出勤しなければならないので、自転車で2、3時間かけて通勤したいと思います。

幸い主人の学校も近いので、二人で通勤し、二次災害に備えたいと思います。性犯罪、窃盗がとても増えています。

《 3 / 1 7 》

地震があった日は、高等部の卒業式が終わった後で、各自帰宅し、可能な限り児童生徒の安否確認をすることになりました。

卒業式に千葉から元同僚が来ており、幸い五橋中学校で会えたので、私の家で過ごしました。

携帯が通じず、ラジオも聞こえず、不安な私は、遠藤先生と同じようにナビのテレビで情報を得ました。

元同僚や姑さんも私が聞こえず人一倍不安なことを理解してくれ、たくさん話をしてくれました。

まずは自宅で避難生活をするために必要な物を集め、避難所の情報収集などしました。

月曜日は、震災後避難所になっている中学校から主人が帰ってこれそうだという連絡が取れ、車で出勤しても帰りのガソリンが不安で、出勤を断念しました。

散乱している物置から自転車を出して通勤準備、家がいつ倒壊しても逃げられるように準備。

元同僚の出身が秋田市で、ご両親が迎えに来てくださり、食べ物をいただきました。ありがたいです。

私が勤務している学校では諸問題が発生するのを防ぐため、保護者との携帯でのやり

とりが禁止です。

しかし、私は職場の電話は聞こえず、かろうじて携帯であればなんとかできるので、私は携帯でのやりとりは認めていただいていたいました。

そのため、クラスの2人とは連絡が取れ、安心しました。

緊急用のメーリングリストもありますが、停電のため流せなかったようです。

電気が通りましたが、いつまた暗くなるのか分からず、懐中電灯が離せません。

補聴器も外せません。

テレビのテロップはありがたいのですが、早いので、メモしきれず、主人からの知恵で、デジカメで撮影しています。

明日からは出勤しなければならないので、空のペットボトルをリュックに入れ、自転車で行く予定です。早くガソリンがくるといいなあと切に願っています。

この期に及んで、窃盗、性犯罪が増えているようで、すごく不安です。救援物資が十分に届きますように m(_ _)m

《 3 / 2 0 》

仙台市教育委員会は、宮城県教育委員会と折り合いがつかなかったようで、4月から人事異動も予定通り行うことになっています。

宮城県の方は、始業式等すでに日程を打ち出しておりますが、仙台市はまだ見通しがたっておりません。

私が勤めている学校は30日に卒業生と保護者のみで卒業式を行います。

ガソリンはありませんが、火曜日からは通常通りの出勤になります。

【宮城教育大学 MJ 准教諭】

《 3 / 1 6 》

3月11日 地震発生 宮城教育大学で被害を受ける

3月12日 山形の実家へ避難

東北地方の聴覚障害大学生の安否情報を Twitter 「@Joe_Matsuzaki」 や PEPNet-JapanML を活用して調査開始（15日時点で全員生存確認）。

3月13日 宮城県ろうあ協会と相談し、災害対策用 Twitter 「@miyagirou」 を立ち上げ、管理者として情報を集約・発信。

3月14日 NPO 法人みやぎ・せんだい中途失聴難聴者協会理事長からの指示で、理事長代理として、株式会社プラスヴォイスと連携して、聴覚障害者や通訳者の安否情報を収集。また、株式会社プラスヴォイスと、CS 統一機構との連携で全国への情報発信及び救援依頼の体制構築を検討中。

3月15日 長野サマライズ・センターと協議し、テレビや援助スタッフの音声情報を遠隔で文字通訳するシステムを援用することとし、同日夜から開始。

3月16日 日本財団と協議し、情報獲得及び遠隔通訳支援を幅広く活用するために、携帯電話の提供を検討。現在、岩手県、宮城県、福島県で必要な台数を確認中。

《 3 / 1 9 》

1. 筑波技術大学と協議し、宮城県内大学における聴覚障害学生支援力の低下をカバーするために、県外の大学や関係機関のネットワークを活用した遠隔情報保障支

援の体制を構築していくことを決定。

2. 宮城県ろうあ協会に東日本大震災聴覚障害者救援宮城本部を設置。私は、同協会 Twitter 窓口担当、NPO 法人みやぎ・せんだい中途失聴難聴者協会理事長代理として出席。安否情報の取り扱い、今後の救援方針を検討する。
3. 日本財団とのネットワークで聴覚障害者のための情報保障用携帯電話を配給していただく。宮城県に 50 台、福島県に 30 台配給決定。
4. オルタナ社、大阪（青年会議所）J C が仙台入りし、今後、2 トン車で、水、食料、生活雑貨を関西からピストン輸送をしてくれることを個人的な人脈で連絡があり、聴覚障害者が多くいる被災地への輸送を要請。
5. 株式会社プラスヴォイスとの連携で、NPO 法人みやぎ・せんだい中途失聴難聴者協会の安否情報の管理システムを構築。
6. 長野サマライズ・センターとの連携で、県内の聴覚障害学生がローカル情報を得るために遠隔情報保障支援システムを実施。

《 3 / 2 0 》

1. ソフトバンク孫社長に私から直接交渉し、手話で話せるビデオ通話や文字での遠隔情報保障支援に活かせる 아이폰 50 台、iPad 10 台の無料貸し出しをしてくださることになりました。
これらは NPO 難聴協に送ってもらい、必要な方々に必要台数配布します。
またそれとは別にビデオ通話が可能なソフトバンク携帯を 20 台配給していただきます。
2. 先日話題にあがった「オルタナ社」が宮城県ろうあ協会に関心を持ってくださり、私のほうで仲介させていただき、両者間で直接必要な物資内容について検討を進めてくださることになりました。
3. 宮城県ろうあ協会宮城本部に続いて、NPO 難聴協でも「宮城本部」を発足させました。私も副理事長として活動します。遠藤先生も存じている村田哲彦さんも中心的なメンバーに入っています。
安否確認をしながら心のケア、きこえの支援の活動をします。

以上のように少しずつ宮城県内の聴覚障害者の安否確認だけでなく救援活動へシフトしつつあります。

【仙台市内】 ※宮城県立聴覚支援学校の育児休暇中の教員より

《 3 / 1 7 》

私はまだ育休中で現場から離れていますが、学校の生徒、先生方は無事か心配しておりました。

地震が起きた当時は、2 才の息子をいつものように保育所に預け、名取の妹と買い物している最中に起きました。

今まで体験したことがないすごい揺れ方で、娘はベビーカーに乗せたまま出口まで出るのに思うように足が動かずやっ和外に出た感じでした。

妹たちと外れたので、回りの声はただ雑音、悲鳴などしか入りませんでした。

そばに店員さんがいたので妹たちと外れたこととお話しました。

店員さんに私が耳が聞こえないことを伝えるとゆっくりとお話してくれて手話や筆談を使って下さいました。たまたまですが心強く感じました。

当時は停電であり、情報がまったく見えない不便さを感じました。
遠藤先生と同じようにカーナビで見たり、携帯でワンセグ見たり…ワンセグ見るとお金がかかる、電気もなくなるのでほんの少ししかできませんでした。
夜だと電気もつけられず懐中電灯やろうそくを使っての生活なので、聞こえない私にとっては家族との会話するのは大変でした。
やっぱり聞こえない人にとっては電気、情報が必要であること改めて実感しました。

福島県

【福島県立聾学校】

《 3 / 1 1 》

校舎は大丈夫ですが机にあったものが散開、本棚等が倒れ、子供たち、先生方は避難、早退しました。

震度5ぐらいで初めての恐怖体験でした。

分校の被害が甚大な報告はなし。

《 3 / 1 2 ① 》

14日は生徒は全員出席停止で、教師は通常出勤となります。

高等部合格発表も延期となりました。

聾学校と寄宿舎を避難者受け入れ場とし、寄宿舎とホールをあわせて百名を受け入れるそうです。

生徒の連絡でおわれた午前中で、午後からも引き続き行います。

福島は合格発表に加え、卒業式を来週中でした。

《 3 / 1 2 ② 》

爆発のために聾学校と寄宿舎を避難者受け入れ場とし、寄宿舎とホールをあわせて百名を受け入れるそうです。

《 3 / 1 3 》

原発爆発から、避難活動に終われ、給水活動に福島は全力を挙げています。

電気は所々ついています、節電協力を呼びかけられています。

福島市郡山市は断水のため、水の補給主に自衛隊が活動に追われています。

会津若松市、長谷川俊が住んでいる郡山市隣の三春町は水電気が通っており、今のところは大丈夫です。

全地域がそうですが、隣の市町に移動にしても道路の破損があり、怖いです。

そこに余震があると、惨事を招きかけません。神経を使います。

学校からは14日出勤と言われていますが、移動に気を使いつつ、家に家族を残していく、学校まで車で40分強ですから、躊躇してしまいます。

《 3 / 1 4 》

今日から17日まで休校となりました。先生方は校内の片付けにおわれていました。

また、被災者を 30 名ほど受け入れ、先生方が交替で食事などのお世話をしています。以前のメールでお伝えした通り、校内には目立った被害はありませんでしたが、聾学校がある郡山市は、ガソリンが大変不足しており、出勤が難しくなりそうです。先生方も相乗りで出勤するか、自動車以外の交通手段を考えています。寄宿舎は断水などで閉舎となり、福島県内の高速バスや電車などの公共機関も復旧の目処が立っておらず、生徒がどのようにして学校に来ることができるかと問題になっています。

《 3 / 17 》

私の自宅は三春町にあり、原発場所から 50 キロ離れていますが、隣市の田村市一部に屋内退避勧告が発せられ、近々屋内退避でしょう。

隣市の郡山市にある聾学校学校への出勤がだんだんと難しくなり、自宅もガソリン満タン、水の備蓄、暖房や電気は節約をしています。

県外に妻の両親がいる家に退避か、かなり悩んでいます。

情報提供の拠点の一つをたたみ、携帯からをと考えますが、県外退避避難はしたくないです。

さらに、学校は幼児児童生徒は自宅待避、避難所待避ですから、安全の確保は各家庭にゆだねられています。

ですが、卒業式の延期日への挙行の是非については、かなりもめました。

と言うのは、送辞担当の生徒はガソリン不足で延期日に来れない、答辞担当の生徒は学校が高校入試で休みで母実家の青森に帰省をしていた時に震災発生で、さらに延期したら青森に帰れないとなりました。

多数の生徒親から来れないと長谷川携帯に寄せられ、PTA 会長に相談、校長に相談して、無期延期を決定しました。

そこに原発爆発で、県からの命令で卒業式中止です。

なので、親の会・同窓会組織を使って、「お別れ&決意表明会(仮)」を復興後に行おうと、少し検討しています。

《 3 / 19 》

福島県立聾学校は木曜日が卒業式でしたが、地震により、無期限延期となりました。そのかわり、校長室で登校することができた卒業生のために、ささやかな卒業式が執行されました。

小学部の児童三名が、三名揃うのは時間的に難しかったので、それぞれに卒業式が執行されました。

校長も祝辞を一部分を手話で述べるなど、工夫がこらされた卒業式でした。

手話通訳を担当した先生方も地震が勃発する前から練習していたので、突然に卒業式を執行することとなっても落ち着いて通訳をやることができました。

《 3 / 20 》

郡山市役所屋上にある建て物が崩壊している様、会館のガラスにひびが入っていて使用不可になっているところ、店が半壊しているところと。

トイレも大のときはバケツに水を汲んで勢いよく流し込む・・・など。

避難所にいる方々は、ほとんど相双地区（原発発生場所から 20 キロから 30 キロ場所の市町村・福島沿岸地帯）の避難者、健聴者が大半であり、漁業を生業とする聴障

者はいなく、唯一原発関係で働いている聴障者も親戚宅に身を寄せています。相双地区出身の聾学校生徒も然りです。さらに相双地出身の聾学校高等部受験生も安否を確認しました。

家屋崩壊は、相双に集中していて、情報伝達はパソコンメール、携帯メール、インターネット、ツイッターなどで交換し合っていますから、“情報障害”はメール類を扱えない聴障者に起こります。

対応として、市にある聴障協会がFAXや家庭訪問、手話サークルの場を活用して情報共有しあっています。

今のところ大きな混乱は生じていません。ガソリンがない、水がまだ復旧していない（復旧率80%）の面では他東北と同じです。原発に対する大きな不安が大でしょう。

【福島平分校】《3/11》

平分校古いので倒壊が心配でしたが大丈夫です。大きな揺れで校庭に避難しました。子どもは無事に保護者に引き渡し職員も帰宅できました。水が断水しましたが電気ガスは大丈夫です。

【福島県立石川養護学校】《3/13夜》

石川養護学校では、高等部の授業の最中に地震が発生し、駐車場に一生の生徒を避難させました。

そして、保護者に迎えに来てもらうように対応しました。

また、小、中学部の生徒が乗せたスクールバスが途中で学校に戻り、保護者に迎えに来てもらうように対応しました。

失礼な話ですが、私の妻が9ヶ月に入ったため、帰宅を促さされたため、途中で帰らせていたただ来ました。

そして、金曜の10時半から同僚から無事に保護者に引継ぎができました。

そして、自宅に帰ったということ連絡頂きました。

学校の回りはほとんど被害も無かったようです。

私の住んでいる地域（白河市）では、電気、ガスは大丈夫で、断水状態です。

水道の復旧については、時間がかかるということです。

学校ですが、明日が合格発表ですが、延期です。

その後の予定については、明日話し合うということです。

明日、教師は通常勤務だそうです。

給水に向かったときに教務の先生と偶然お会いしました。

そして、まず言われたのが頑張ろうね。という言葉頂きました。

その言葉を励みに頑張ります。